

配線器具による火災について



平成26年の電気設備機器火災（全火災件数4,085件中1,020件）は、火災原因の21.2%を占めています。

電気コード、差込みプラグ・コンセント・テーブルタップ・コードコネクタ・マルチタップが原因の火災は285件発生しています。

電気設備火災による死者の6割以上が配線器具等によるものです。



配線器具等による出火原因

- 1 電線が短絡する (91件)
- 2 金属の接触部分が過熱する
(86件)
- 3 トラッキング (53件)




電線が短絡する

電源コードが家具等に挟まれた状態・踏みつけられた状態で、電気器具を使用していたことで電源コードが発熱し出火の原因となる。




金属の接触金部が発熱する

差込みプラグのさし刃やコンセントの受け刃の緩みなどにより金属の接触部が発熱し出火の原因となる。



トラッキング

トラッキング現象はコンセントに差込んだプラグの周辺に綿ぼこりや湿気などが付着することにより、差込みプラグの刃の間に電流が流れ、火花放電を繰り返すことで、絶縁樹脂表面に炭化導電路（トラック）が形成され、発火する現象です。



事務所等で電気製品・照明器具は、長期間コンセントの抜き差しする事も、移動することもなく、使用されています。

電源コードが有る事を忘れ、他の物品などを置いてしまい、コードが踏まれた状態となったり、ほこりや湿気による水分の付着しやすい状態になります。

火災から、身を守る為・財産を守る為、日頃からテーブルタップ・コンセント周辺の整理整頓、年末の大掃除に電源コードの点検・清掃を行うようにしましょう。